



特集

# コウノトリ

共につなぐいのちの環

かつて、一度は日本の空から姿を消したコウノトリ。いまでは復活して数が増えつつあり、神栖市に飛来してヒナも生まれています。今回は、神栖市とコウノトリの関わりや保護活動についてご紹介します。



## 復活した貴重な鳥が、全国から神栖市へ

コウノトリは絵本などでおなじみですが、実際に飛んでいる姿を見たことはありますか？羽を広げると2メートルもある大きな鳥で、悠々と空を舞う姿は美しく印象的です。絶滅危惧種であり、国の特別天然記念物に指定されている貴重な鳥です

が、実は神栖市に生息し、ヒナまで誕生しています。

さて、コウノトリが神栖市に飛来するまでには長い物語があります。まずその歩みを振り返ってみましょう。

1870年代後半(明治初期)、コウノトリは日本全国にいる身近な鳥でした。その後、戦争の影響やエサの減少により数が減っていき、1955(昭和30)年ごろから保護活動が始まります。しかし1966(昭和41)年には兵庫県豊岡市でしか見られなくなり、とうとう1971(昭和46)年に最後の1羽が死んで野生絶滅してしまいました。豊岡市では、何とかしてコウノトリを復活させようと手

を尽くします。そして、生息地の整備や繁殖に取り組み始めてから24年目の1989(平成元年)、ようやくヒナが誕生。その後も野生復帰を進め、2005(平成17)年に試験放鳥を開始し、2010(平成22)年には全国に分散し始めたといえます。

翌2011(平成23)年4月13日、豊岡市生まれのコウノトリが初めて神栖市で確認されました。2015(平成27)年には市内で毎年見られるようになり、兵庫県豊岡市・養父市、福井県坂井市・越前市、京都府京丹後市、徳島県鳴門市、千葉県野田市、栃木県小山市など、全国各地から飛来しています。

## コウノトリに選ばれたまち

関東でコウノトリがたくさんいるのは渡良瀬遊水地と利根川河口部で、野田市には飼育施設があり放鳥もしています。2020(令和2)年には渡良瀬遊水地で、東日本で初の野外繁殖が確認されました。神栖市でも去年と今年、2年連続でヒナが生まれ、合計10羽が巣立っています。ところで、どうして神栖市で繁殖までするようになったのでしょうか？兵庫県立コウノトリの郷公園・主任

研究員の布野隆之さんに聞きました。

「去年の時点で日

本のコウノトリは約360個体まで増え、ほぼ全国で目撃されています。ただし、繁殖しているのは47都道府県のうち13府県だけです。コウノトリは全国各地をぐるっと回って、最後に繁殖したいところに行つて定着するパターンが多いので、神栖市がコウノトリに選ばれたということになりますね。選ばれた理由は、自然豊かでエサが豊富にあることに加え、地元の方々に愛されて受け入れてもらっているからだと思います」

## 人工巣塔で安心の巣づくりを

まさに愛情たっぷり、地元でコウノトリの見守りを行っているのが波崎愛鳥会です。会長の柳堀弘さんに活動の様子を聞きました。

「2019(令和元)年に、野田市生まれの翔(オス)と未来(メス)のつがいが高圧鉄塔に巣づくりを始めました。でも感電や衝突などの危険があ

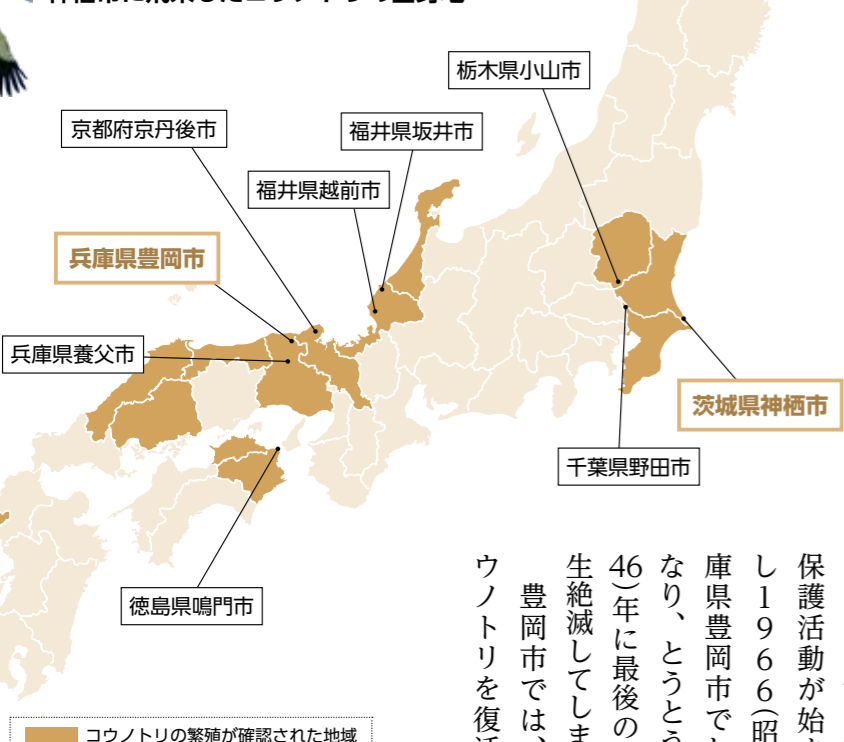


布野さん



人工巣塔

## 神栖市に飛来したコウノトリの出身地



2005年の試験放鳥以降、日本でコウノトリのヒナが生まれ育ったことがある地域は13府県26市町村(2023年12月末現在)。関東では、神栖市のほか茨城県行方市、千葉県野田市、栃木県小山市でコウノトリの繁殖が確認されている。(参考：兵庫県立コウノトリの郷公園ホームページ)